

倫理法人会の活動の柱である「経営者モニングセミナー（以下、MS）」は、全国七五二カ所の会場で週に一度、開催されています。そのMSの開始三十分前には、参加者を明るく迎え、お世話役にあたる諸係の担当者相互の活力とチームワークを高めることを目的に「モーニングセミナー朝礼（以下、MS朝礼）」が実施されています。諸係の担当者は、「MS朝礼」を通じて、心身の準備を万端に整えて、MSの開催に臨みます。しかし、どんなに準備を整えて実施しても、想定外の事態が発生したり、MSの質を高めるための課題が発見されたりするものです。

そうしたトラブルや課題を、あやふやにせず次週の開催に活かすため、自主的に「MS終礼」に取り組む会があります。MS後に開催される朝食会が終了した後、諸係の担当者が集合して、その週の振り返りをするのです。

ある会では、朝食会参加者のお見送りが済んだ後、担当者数名が輪を作り、運営を通しての気づきや反省、良かった点や互いへの感謝を一人ずつ発表し合っています。そこで出た意見を役職者間で共有し、次週の運営をより良いものにするために、すぐに課題の解決に動き始めます。MS開催の準備や課題解決への取り組みが、開催日当日の朝ではなく、前週の終了後からすでにスタートするので、万全の準備を整えることができ、運営の質が高まっています。これは当然と言えます。



## 振り返ることが 成長を加速させる

このように「MS終礼」を自主的に実施して振り返りをするのは、まさに「後始末」の実践と言えるでしょう。

MS運営にかかわらず、一日の仕事も、一つの事業も、一年の締めくくりも、「振り返り」という後始末を実施することは、成長の大きなポイントとなります。一連の事態の経過の要所で、何ができて、何ができなかったのかを振り返り、できた要因は何か、できなかった原因は何かを追求することで、長所伸展、課題解決に力を結集することができるようになります。

倫理研究所の創設者・丸山敏雄は、「後始末」について次のように述べています。

あと始末はよいか。ぬかりはないか、くくりはよいか。あと始末ができなければ、物事は、まだ完成したのではない。ここからヒビが入り、穴があいてくずれぬ。

あと始末の第一は、終わってもなお緊張をゆるめぬこと、気を張っていることである。やれやれこれで一仕事すんだ……と、アホウのように気ぬけて遊んだりすると、そこから仕事がかずれぬ。（中略）

これは、すぐしなければだめである。だからだらしていると、もうあと始末をしないのと同じである。

『サラリーマンと経営者の心得』

今年一年を通して、できたこと、できなかったことをしっかりと振り返り、気が付いたことはすぐに行動に移しましょう。その取り組みが、来る新年の更なる飛躍につながるのです。